

1 学校教育目標

安全・安心な教育環境づくりに努め、関係機関と連携しつつ、一人一人が持てる力を主体的に精一杯発揮できる教育を行う。

2 本年度の重点目標

- 安全・安心な教育環境を整備する。
- 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。
- 肢体不自由教育、重度重複障がい教育の専門性の向上に努める。
- 近隣校との交流及び共同学習の更なる充実を図る。
- 人とかかわりながら自分らしく生きるために必要な力を育てる教育の推進を図る。
- 地域におけるセンター的機能の充実を図る。
- 職員一人一人が力を発揮しやすい学校づくりを推進する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校改革を推進する。	時間外勤務時間の縮減	19時には全職員の退勤がほぼ完了できるようにする。 定時退勤日を定期的に設定し、リフレッシュする時間を確保する。	個々の職員に計画的な業務遂行を促すとともに、業績評価項目に時間外勤務縮減に向けた目標を設定し、意識した行動がとれるようにする。仕事量のバランスに配慮した業務分担を行い、学部・分掌部業務の整理精選を行う。業務や行事の削減を図り、16:00以降の執務時間の確保に努める。	B	通常日において、年度当初19時に退勤時刻を設定し取り組んだ。2学期末には、ほぼ達成できた。奇数週の金曜日を定時退勤日と定め、18時の退勤を目指した。職員朝会や職員会議等で、国及び県の動向を含め根気強く働き方改革の意義を伝え続けた結果、2学期の後半には、ほぼ達成できた。
	危機管理体制を整備する。	危機管理意識の高揚	ヒヤリハット事例の共有や緊急時対応シミュレーションを実施し、危機管理意識を高める。	ヒヤリハット事例一覧表を活用し、月初めに職員に周知していく。また、各学部で緊急時を想定し、学期に1回以上、シミュレーションを実施する。	B	学部毎に朝の打ち合わせの時間にヒヤリハット事例について報告するとともに、毎月ヒヤリハット一覧表を回覧し、必要に応じて職員朝会で報告して、全体で情報共有することができた。また、各学部において、毎学期緊急時対応シミュレーション訓練を実施することができた。
	本校の特色やよさを広く発信する。	積極的な情報提供	ホームページの定期的な更新と、学校要覧の作成を行い、広く発信する。	情報教育部が中心となり、ホームページ掲載計画の作成とより見やすい学校要覧作りを行う。	A	学校行事や毎月の各学部等の取組等、定期的にホームページの更新を行った。また、学校要覧については、管理職・主事

					主任と情報教育部が連携し、分かりやすく見やすいものを作成した。
	適切な教育課程を編成する。	教育課程の検討	児童生徒一人一人の持てる力を伸ばすことのできる教育課程を編成する。	教務部が中心となり、前期、後期末に実施状況をまとめ、各学部、分掌部と連携し、改善を図る。教育課程検討委員会を定期的に実施し、学校全体を見通した検討を行う。	B 教育課程等ヒアリングや、全職員に実施した教育課程に関するアンケートの結果等を参考に、教育課程の見直しを行った。また、全5回の教育課程検討委員会を実施した。連携が必要な分掌部の視点からも、教育課程を見直すことができた。今後は、各教科の指導のあり方についての検討が必要である。
授業の充実	教職員の専門性向上を図る。	専門性向上のための研修の実施	研修等に積極的に参加し、児童生徒の安全・安心な学校生活づくりに必要な専門的知識を深める。	研修部が中心となり、職員が研修等に効果的に参加できるように、計画し執行する。また、年間を通してP・T・S・Tによる研修を実施する。指導内容については、各学部、学校全体で共有する機会を設ける。	A ・県内特別支援学校の公開研究会、熊本県立教育センター研修、県外研修等に多くの職員が参加し、研修結果を報告した。 ・外部専門家活用事業、公開授業研究会等で、専門家を活用した研修を計画的に実施できた。特に、学部毎に研修を計画・実施したことで、各学部で必要としている内容の専門性の向上を図ることができた。
	よりよい授業を追求する。	実践研究による授業改善	指導案を作成して授業研究会を行う。	・講師招聘研修会等を行い、確実な実態把握や適切な指導目標・内容の設定、授業評価を踏まえ授業の改善を行う。 ・学部内授業研究会、公開授業研究会を実施し授業改善に取り組み授業力を高める。 ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の様式を年間を通して随時検討して、より良いものにしていく。	B ・学年初め、夏季休業中に講師招聘研修会を行い、今年度の研修テーマに沿った「実態把握から目標設定までのプロセス」について知識を得ることができた。今後、児童生徒の実態把握から中心課題の抽出までについて実践しながら授業改善につなげていく。 ・公開授業研究会を企画し、各学部で授業改善に取り組んだ。学部全員で検討することでよりよい授業づくりにつなげることができた。 ・カリキュラムマ

					ネジメント検討委員会の中で、個別の教育支援計画・指導計画の様式を見直し、より書きやすくわかりやすい様式を作成することができた。今後、作成については、全職員に丁寧な説明を行う。
	児童生徒に応じた食育と保健指導の充実を図る。	児童生徒に応じた食育及び保健指導	毎月の保健目標に応じ、児童生徒の実態に合わせた内容を設定して取り組む。	健康保健部が中心となり、養護教諭や栄養職員と連携・協力して取り組む。学部集会、学級や個別指導等健康課題に応じて指導場面を設定して取り組む。	A 月ごとの学校保健目標をもとに、各学部学期2回以上の保健指導を実施した。養護教諭と連携し、模型等を活用することで、児童生徒が理解しやすい指導をすることができた。今年度の取組を振り返り、より子どもたちに分かりやすい目標・内容になるよう検討する。
キャリア教育(進路指導)	児童生徒一人一人に対する進路指導の充実を図る。	個に応じた進路指導及び情報提供	児童生徒一人一人のニーズを把握し、適切な進路指導や情報提供を行う。	進路指導部が中心となり、各学部において児童生徒一人一人の進路希望を把握し、面談等を通して進路実現に向けた情報提供を行う。また、施設情報や福祉制度について進路便り等を用いて随時情報提供を行う。	B 進路希望調査を全学部全学年で実施し、保護者の思いや考えを把握し、個別面談等で話題にしたり、進路開拓や施設見学の対象施設選定の参考にしたりすることができた。また、進路便りを毎月発行することができた。今後も進路便り等を通じて、保護者が求める進路についての情報発信を行う。
生徒(生活)指導	より良い交流及び共同学習を推進する。	交流及び共同学習の更なる充実	各学部で交流を実施し、楽しくかわれるように工夫する。	生活部が中心となって、相手校及び地域の交流担当と連携し、時期、回数、内容等について打ち合わせを行うとともに、関係する職員が共通理解を深めて取り組むようにする。	B 学校間交流や居住地校交流を、学部ごとに計画的に実施することができた。目的や活動内容の打合せを前年度末に行ったことで、交流担当者が替わっても児童生徒の実態に合わせた活動ができた。次年度の交流についても、活動内容や実施期日の打合せを3月初旬までに行う。
人権教育の推進	教職員の人権意識の向上を図る。	児童生徒の人権尊重	全職員が、人権教育の研修に参加し、自分なりの課題を見つけたり	教務部が中心となり、全体研修を実施し、同和問題をはじめとする様々な人権問題につい	全体研修及びグループ研修を3回実施した。グループ研修では、全3回を通して、職員各自が関心のある人

			人権尊重を意識して行動したりする。	て学ぶ機会を設ける。各学部の実態に応じた取組について学部ごとに検討し実施する。	A	権課題について主体的に学ぶことができた。また、人権意識向上のためのアンケートを実施したことで、自分の児童生徒へのかかわり方や日頃の行動を見直すことができた。
	命を大切に する心を育む指導の充実を図る。	自尊感情の育成 及び生活経験の拡大	児童生徒一人一人が自分の力を発揮し、ものごとを成し遂げたり、集団の中で自分の役割を果たしたり、共に活動したりできるようにする。	一人一人の実態把握を行い、できる活動を準備する。集会や係り活動で児童生徒に応じた役割を準備する。学校生活の中で様々な人とのかかわる機会を設ける。	A	様々な学習活動の中で、児童生徒一人一人の実態に応じた指導の工夫が見られた。集団活動や交流及び共同学習、校外学習を通して、生活経験の拡大を図った。また、人権週間等に、各学部の実態に応じて児童生徒同士がお互いを認め合う場を設けるなど、自尊感情を高める取組ができた。
いじめの防止等	いじめ問題に対し迅速かつ丁寧に取り組む。	いじめ未然防止及び早期発見	すべての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう情報提供等を行い、いじめのない環境をつくる。	いじめ防止等対策委員会が中心となり、全職員でいじめに関する情報を共有し家庭、外部専門家と連携していじめ防止に努める。	B	いじめ防止等対策委員会を3回実施した。外部専門家に、授業参観していただき、集団づくりや児童生徒へのかかわりで留意すべき点等具体的な助言をいただくことができた。その内容は朝会で連絡し、全職員で共有した。
地域支援	教育相談の充実を図る。	関係機関等との連携による地域支援	地域の小・中学校のニーズに応じた教育相談を実施する。	ニーズを的確に把握し、関係機関等と連携しながら教育相談を実施する。	B	地域の学校及び関係機関からの10件のべ13回の相談に対応した。会議への参加・研修における講話等を通して、本校の専門性による地域支援ができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災体制の充実を図る。	地域と連携した防災体制の構築	学校防災マニュアル及び福祉子ども避難所マニュアルの内容について検討する。	学校運営協議会と危機管理委員会をそれぞれ3回実施し、本校の防災教育、防災管理及び福祉子ども避難所になった際の対応について協議し充実を図る。また、定期的に熊本市の福祉子ども避難所担当者と話し合いの場を設定する。	B	学校防災マニュアルの内容の検討や備蓄、避難訓練について、危機管理委員会及び学校運営協議会において十分に協議し、今後の本校の防災対策につなげることができた。また、熊本市と福祉子ども避難所について協議を行い、1月に協定を結ぶことができた。

	地域との交流の充実を図る。	地域に開かれた学校づくり	・本校の取組を地域の方々に見ていただく。 ・文化サークル等に依頼し授業に参加していただき、交流を深める場を作る。	・学校見学週間を設定し、本校の取組を地域に公開する。 ・地域の文化サークル等の団体を招待し、手品を通じた交流を行う。	B	・7月に就学説明会と学校見学会を実施した。就学説明会31人、学校見学会95人の参加者に対し、校内の様子や取組を公開した。 ・中学部では、花園マジック教室の方にマジックショーを見せていただいた。手品の実技指導もあり、地域の方と直に触れ合うことができた。高等部では10組の母子と20名の民生委員に参加していただき、母子交流を実施した。生徒にとって、乳児と触れ合う貴重な機会となった。
--	---------------	--------------	---	---	---	--

4 学校関係者評価

- ・学校生活が、とても充実していると感じた。在学中の充実した取組を、卒業後の生活の充実につなげていってほしい。
- ・交流及び共同学習が、充実した内容で計画的に実施できている。お互いにとって良き学びの場となっていることを感じる。学校間交流の相手校の一つとして、さらに充実させていきたい。
- ・学校全体で、きめ細かな指導がなされていると感じた。
- ・写真や動画で授業や行事での児童生徒の様子を見たが、皆とても表情がいいと感じた。
- ・支援体制やアレルギー対応の視覚化が実践されていた。リスクマネジメントがしっかりできており、安全・安心な教育環境が実現できていると感じた。

5 総合評価

- ・働き方改革に関しては、国や県の動向を随時確認しながら、年間通して取り組んだ結果、学校全体で一定の成果を得ることができた。ただ一部の職員に関しては、時間外勤務の縮減が不十分な状態である。
- ・教職員の専門性の向上及び授業の充実に関しては、第1回の公開授業研究会開催に向けて、研修部を中心として学校全体で取り組んだ。取組の中で、講師を招聘しての講演、研究授業及び授業研究会を計画的に実施し、専門性の向上と授業の充実を図ることができた。
- ・防災体制の充実を図る取組として、危機管理委員会、学校運営協議会を、年間3回計画的に実施した。会議を通して、学校防災マニュアル、備蓄に関すること、避難訓練等について十分協議することができた。また、福祉子ども避難所についても、継続的に協議し、1月に協定を結ぶことができた。

6 次年度への課題・改善方策

- ・働き方改革に関する取組は一定の成果を得たが、来年度から適用される国の基準から見ると、まだ十分とは言えない状況にある。今後、さらに行事の精選や仕事の効率化を図り、進めていくこととする。
- ・教職員の専門性向上と授業の充実に関しては、これまで自立活動を中心に研修を進めてきたが、次年度はそれに加えて、国語、算数・数学等に関する研修の充実を図っていきたい。研修部が中心となるが、新学習指導要領との関連も考慮して、必要に応じて教務部と連携して研修を実施していきたい。
- ・福祉子ども避難所の調印式後、熊本市の防災担当者と打ち合わせをし、今後のことについて共通理解を図った。次年度4月に、熊本市西区の総合防災訓練を共同で実施する。また、校内においても、引き渡し訓練等、より実践的な訓練を計画的に実施する。

(別紙様式 4-1 及び 4-2) 学校評価表記入要領

1 学校教育目標

教育活動の全体を通じ、どのような生徒を育てていこうとするのか、学校で定めた（あるいは以前から定めてある）教育目標を記入してください。

2 本年度の重点目標

学校教育目標、現状分析を基に、今年度重点的に取り組む事柄を記入してください。

3 自己評価総括表（1、2を踏まえて設定する。）

○評価項目 = 評価の対象とする項目を記入してください。

例) 大項目: 学校経営 → 小項目: 開かれた学校づくりに取り組む。

○評価の観点 = 評価項目（小項目）を具体化したものを記入してください。

例) 公開授業の推進

(一つの評価項目に対して複数の評価の観点を設定してもかまいません。)

○具体的目標 = 可能な限り数値化するなどして、具体的な目標を記入してください。

例) 年間3回以上の公開授業を実施する。

○具体的方策 = 具体的な目標を達成するための手段・方策を記入してください。

例) 教務部が立案し、学期に1回学校全体で取り組む。

○評価 = あらかじめ定めた評価基準に基づき、評価項目の達成度を評価する。
(A～Dなどで記入してください。)

○成果と課題 = 評価項目について、成果として評価できる点、今後の課題として浮かび上がった点を記入してください。

例) 年間3回の公開授業を実施し、学校全体として取り組むことができた。ただし、保護者の参加が少なかったため、開かれた学校づくりという視点からは課題が残った。

4 学校関係者評価

自己評価の結果について、「学校関係者評価委員会」で出された意見を記入してください。

記述式で、評価された点や課題として指摘された点が分かるよう、簡潔に記入してください。
自己評価総括表のすべての評価項目について、触れる必要はありません。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標、2 本年度の重点目標、3 自己評価総括表に対する評価を記述式で記入してください。自己評価総括表のすべての評価項目について、触れる必要はありません。

6 次年度への課題・改善方策

3 自己評価総括表、4 学校関係者評価、5 総合評価の結果から、次年度に取り組むべき課題を簡潔に記入し、改善方策についても、年度末の段階で考え得ることを記入してください。